



きじむんの どう〜ちゅばにい〜 第8回

ヒーダマ(火玉)

キーワード：人魂、イニンビ(遺念火)



ハイサーイ！ キジムンヤイビーン。

百年ほど前は、怪談話は冬の演目だったんだよ。なんで今は夏なんだろうね？

附属図書館は、今月は宮古島で企画展「宮古諸島のくらしと風景」を開催するよ！ ぜひ来てね！

今月のお話は、ヒーダマ(火玉)。凶事の前に現れる赤色や青色の火の玉のこと。その後に死者が出たり、火事が起きたりするとされているよ。

ヒーダマが人の魂である場合には、タマガイ、チュダマとも言う。山中や坂道によく出るよ。恋愛関係にある男女が非業の死を迎え、火の玉になって出てくるんだって。

有名なのは、識名坂の遺念火(首里)。宮古では、夕方になるとガジュマルの木にちらちらと魂が動く、とも言われているよ。

伝説によれば識名坂(シチナンダビラ)の遺念火は、首里の識名村の若い夫婦が悪者の手にかかって別々の場所で殺され、二人は火の玉となり、夜ごとに識名坂下の金城橋あたりに出没するといわれているよ。この伝説は明治42(1909)年に沖縄芝居となって、のちに琉球歌劇の演目のひとつとして定着したよ。



ヒーダマは年に一度見ることができるよ。

旧暦8月8日のヨーカビーの夜、丘の上から村を見ると、これから一年間に亡くなる予定の人家から、火の玉があがるんだって。現代でも出るかな？

県内各地で見られたイニンビも、沖縄戦が終わってからはほとんど出なくなったよ。

「沖縄戦で弾にやられたのでは」という人や、

「現代は夜が明るすぎて出てきても見えないのでは」っていう人もいるよ。

夜道で火の玉に出会ったらきじむんに教えてね！ 捕獲に行くよ！

(AS)

※画像『沖縄風俗之図』(部分) (阪巻・宝玲文庫 HW747 ハワイ大学マノア校所蔵)

画像詳細は右のQRコードから→

